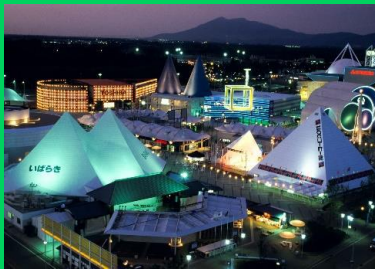




24日にシンポ「地方紙の使命は」開催 茨城新聞、福島新聞論説委員長

メディアの在り方を集中討議する茨城大学と茨城新聞共催のシンポジウム「地方新聞の使命－戦後70年を踏まえて」が24日午後、茨城大学の図書館3階のライブラリーホールで開かれる。

茨城新聞井坂幸雄編集局長、震災報道で平成26年度の日本新聞協会賞に輝い



た福島民報からは佐藤研一論説委員長が出席、人文学部からは、原口弥生教授が出席する。進行役は、人文学部の古賀純一郎教授が務める。

シンポジウムは、昨年12月、茨城新聞と茨城大学の連携事業で、茨大の図書館に地方紙12紙を配

架、閲覧できるスペース「新聞マルシェ」を開設し、開催した第1回目のシンポ「伝え続ける茨城－震災4年」に続く第2弾。今回は、戦後70年を記念し、図書館内の2回の空きスペースを利用して写真展も並行して実施している。



シンポに先立ち午後2時40分から、三村信男茨大学長が挨拶し、これに続き、茨城新聞の小田部卓社長が「戦後70年の茨城」と題して講演する。

シンポは、人文学部のメディア研究に力を入れているメディア文化コースに相談が持ちかけられ、戦後70年を回顧するとともに、今後の地方紙の報道に対する期待を込めて「地方新聞の使命」とした。

3人の登壇者が提起する「記憶に残る戦後のニュース」を軸に、討議し、新聞



の役割、読者との関わり方などで意見交換した後に、これからの新聞の使命について議論する。

(終)

